



全国棚田(千枚田)連絡協議会

棚田ライステラス

第62号 2012.12.20

(年3回発行)

発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会

編集／ふるきゃらネットワーク

〒184-0004 東京都小金井市本町6-5-3チ-ム石塚内

TEL:042-386-8355 / FAX:042-385-1180

<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

特集・第18回全国棚田サミット

特集・分科会感想・見学会リポート、地元感想等
トピックス：「つづら棚田の災害状況」(福岡県
うきは市)



棚田現地見学の様子——菅棚田（写真：NPO法人大山千枚田保存会浅田大輔）



棚田現地見学の様子——峰棚田（写真：山都町）



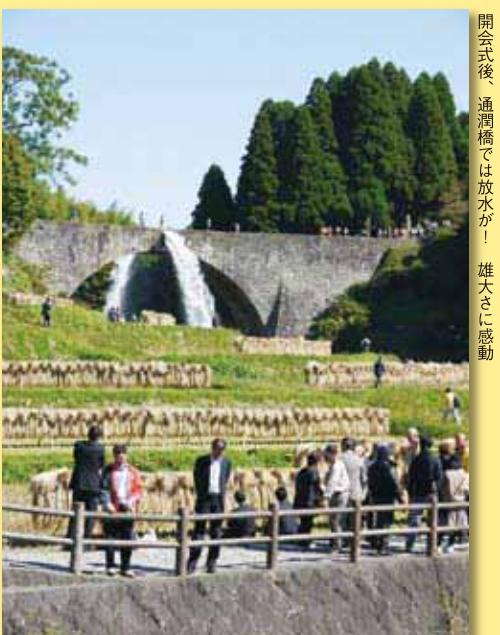
元気な矢部小学校のみんなによる「棚田へ行こう！」



町の中央体育館がメイン会場



棚田現地見学の様子——白糸台地棚田



開会式後、通潤橋では放水が！ 雄大さに感動

第18回全国棚田(千枚田)サミット開催

子どもたちへ残そう地域の宝 ~地域が育み続ける棚田の文化と景観~

2012年10月19日(金)~20日(土)

熊本県
山都町
にて

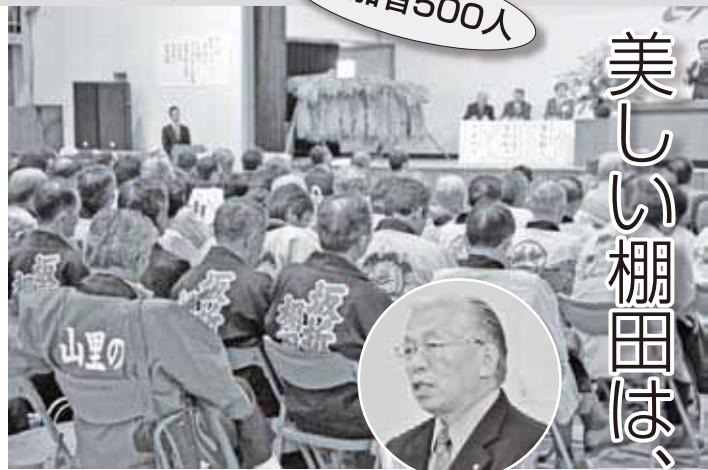
[開催プログラム]

<第1日目 10月19日(金)>

- ・全国棚田(千枚田)連絡協議会総会
- ・オープニング(矢部小学校の合唱「棚田へ行こう」)/開会式
- ・基調講演:吉村豊雄氏(熊本大学教授) 演題:「棚田の歴史をさかのぼる~白糸台地の棚田から見えてきたもの」
- ・事例発表「菅棚田及び白糸台地棚田の取り組み」
- ・分科会 ①:地域が守る棚田の保全と活用
②:棚田が育み続ける自然と機能
③:棚田景観を活かした持続可能な地域づくり
④:棚田を未来に引き継ぐ主体と方法
- ・首長会議:担い手の確保
- ・全体交流会

<第2日目 10月20日(土)>

- ・棚田現地見学:菅棚田、峰棚田、白糸台地棚田
- ・閉会式



事例発表

①「文化的景観保全と地域づくり」 ②「自主的なむらづくりの実践、 「山里のやすらぎ」の提案

事例報告は地元の2地区から行われた。白糸地区は、白糸第一自治振興区女性部長の下田美鈴さんが登壇。「重要文化的景観の保全は地域住民が主体となり生業を維持してこそ。選定は「住民による地域づくりに取り組む動機づけ」と発表した。もう一つは、かつて「陸の孤島」と呼ばれた菅地区。菅地域振興会会长の渡邊正弘さんが、昭和40年代から一丸となって地域振興に取り組んできた歩み、現在の棚田オーナー制度等を紹介。そして、新たな里山レストラン等の取り組み成功例を報告した。

熊本県 山都町長 甲斐利幸

江戸の末に築かれた先人の遺産、灌漑用水路である通潤橋は、今なお現役として堂々たる姿で皆さまを歓迎いたします。虹を描く石橋の放水もまた皆さまに感動を与えたものと思います。

阿蘇の外輪山の裾野に立地する本町ですので、火山性地形からこれ以外にも多くの棚田があります。美しい棚田は、田舎の原風景、また日本人の精神風土の原点と考えます。

非効率の棚田での現在の農業の営みは、生産性のみにとらわれない農家魂の輝きでもあります。美しいという景観だけでは棚田の保全は本当に困難です。TPP問題に対しても国は、もっと明確に棚田等条件不利地域に対する対策を拡充強化してほしいものです。

これからも、私たちは田舎の棚田を美しく護ります。

「第18回全国棚田(千枚田)サミット」は、おかげさまで無事終了することができました。ご参加いただいた皆さんに心から感謝し、お礼申し上げます。

このサミットでは、ただ単なるお祭りではなく、条件不利耕作地の保全に対する都市の皆さまの理解が深まり、なお一方、国に対しての政策提言の場所として権威づけることができたものと、総括しています。

私の町には、棚田として農林水産省認定の菅と島木(峰)の棚田百選の地が2ヵ所、文部科学省選定の重要な文化的景観として「通潤用水と白糸台地」の3件があります。

基調講演

2

「棚田の歴史をさかのぼる」 ～白糸台地の棚田から見えてきたもの～



熊本大学教授・吉村豊雄氏

熊本大学教授・吉村豊雄氏の基調講演は、通潤橋のある山都町での棚田サミットの開催意義を高めるものであった。吉村氏は、通潤橋と白糸台地の開拓を「もう一つの明治維新」だとし、日本でもめずらしく、棚田の開拓歴史が解説できる棚田だと、その歴史的価値を熱く語った。

江戸末期、資金ゼロの矢部手永によつて行われた「通潤用水事業」は、巨大な通潤橋の建設、通潤用水開削、広大な開田(畠地から水田への転用)が主。そして、畠地は新たに開拓)を伴うもの。現代であれば数百億円かかる大事業。これを可能にしたのは熊本藩が中山間の農業基盤整備に投資した幕末期ならではの「幕末の奇跡」と話し、「幕末期のあの20~30年だからできた」とその希少性を説いた。そして、石工などの技術力があったこと、上井出・下井出の知恵など当時の農業士木の觀知がすべて投入されていること、白糸台地8か村全体が恩恵を受けるよう考えられていたことなど、この地の価値が熱く語られた。聞き手も興味深い内容が引き込まれ、もっと地元のみなさんに聞いてもらいたい講演であった。

第1分科会

地域が守る 棚田の保全 と活用

コーディネーター：沢畑 亨氏（熊本県水俣市 愛林館館長）

サブ・コーディネーター：徳野貞雄氏（熊本大学文学部地域社会学教授）

話題提供者 中園俊之氏（株）九州自然環境研究所所長

原田利一氏（山都町・峰集落）

野口慎吾氏（山都町出身 熊本県有機農業研究会）

堀 良輝氏（菅棚田オーナー・熊本市）

居住者だけに限らない取り組みが進行中

私の分科会では、参加者がそれぞれの場所で「明日からまた頑張ろう」という気になることをめざしました。私が進行役で、山都町に何回も調査に来ている徳野教授を相談役に迎えました。

最初は中園さんで、野生動物に対する人間が実質的に餌付けをしている実態を自覚する必要があるということを述べました。一人一人の対応はもちろん必要ですが、集落全体で対策をしなければ、結局野生動物を呼び寄せることになります。まとまった対策が必要です。

次に、海外で農業協力をした後に地元山都町に帰つて農業を営む野口さん。最近まとめた博士論文の研究をもとに、ご自分の実践も交えて面白い話をしました。竹の粉を活用する方法を模索中で、うまく行くことを期待しました。

3番目は山都町峰地区の原田さん。山

都町のはずれではあるけど、熊本市に近い地区で、布田保之助の作った福良井手などの地区的資源を活かして、集落営農を行つたかたわら、婚活イベントや農地の貸し出しなどを積極的に行つています。徳野教授の調査では、農繁期には峰出身者が田畠の手伝いに帰つてくる例も多く、居住者だけに限らないむらづくりは実際に進行中なのでした。

最後は、棚田オーナーとして菅地区に通う皆さんです。堀さんはその中でも、

コーディネーター 沢畑 亨

平成8年の発足当初からの参加者で、十分に楽しんでいる一方で、オーナー制度が地元の負担になっているのではないかと心配していました。でも、地元の皆さんは交流を楽しんでいるということ安心です。さらに、オーナーの中からは菅さんというスーパースターが登場し、菅地区的農産物を運び、熊本市で売つたり、農村レストランの運営にまで携わつたりしています。

翌日の棚田見学で一部の皆さんほど観になつたように、オーナーがおもてなしにも参加していましたから、地元のためにも十分に役だつていてあります。徳野教授の調査では、受け入れる地元は力と労力を使って満足を得ているわけですから「これは新しい祭りじや。祭りに経済性はいらんわい。」ということでした。

徳野教授の最後のまとめでは、個人ではなく家族が農地を耕していて、家族は同居しなくとも家族であるといった点が強調されました。

この分科会では、地元の人間が事例を発表し、よそから来た人が感想を述べたり意見を言つたりして、話は弾みました。事務局による発表者的人選は大変良かつたと思います。進行役の人選も良かつたと誰か思つていただければ幸いです。

有意義だった 参加者から 第1分科会

秋田県農山村振興課
調整・地域活性化班

船木 孝則

第1分科会は沢畑氏、徳野氏の両コーディネーターの巧みな話術や話題提供で実際の棚田オーナーの意見が聞けるなど大変有意義なものであった。

今回のサミットは、秋田県における中山間地域の新たな地域づくり手法の参考とするため出席させていただいたが、全国の実践者の方々の熱い思いに触れ、改めて農山村の価値を再確認するとともに、コーディネーターが述べた「中山間地域の農業にあって同居している人だけが担い手ではない」との指摘は家族の繋がりについて考えさせられた。また、棚田の活用は多様な形態が考えられるが、保全については仕組みづくりが非常に難しいと感じた。

最後に、棚田オーナー制度の実践者が笑顔で語った「儲かりません、でも楽しんでいます！」との言葉が心搖さぶり、地域と共に楽しみながら活動をサポートしていきたいと強く思つた。



（第1分科会写真：山都町）

棚田が育み 続ける自然と 機能

コーディネーター：宇根豊氏(農と自然の研究所元代表・百姓)

話題提供者：鬼倉徳雄氏(九州大学大学院研究院アクアフィールド化学研究室)

藤吉勇治氏(山都町立清和小学校校長)

渡辺克也氏(山都町・白糸自治振興会)



第2分科会写真：山都町

多面的機能の評価額（福岡県）		円／10a
1	洪水防止機能	76,061
2	水源涵養機能	32,978
3	土砂崩壊防止	10,396
4	土壤浸食防止	7,213
5	気候緩機能	189
6	保健保養機能	51,648
小 計		178,485
7	生物多様性保全機能	96,215
水田合計		274,700

分科会の座長として、私は生物多様性の評価額を提示した。TPP推進で最も打撃を受けるのは、案外生きものかもしれないからだ。TPP反対論者たちにも警告を発しておきたいのは、関税は守るが、関税に守られた内側は、市場経済で競争原理で、経済成長至上主義でこれまで通り、やっていくという考え方なら、なんら問題は解決しない。国内の農業は市場経済、経済成長主義からは外して、別枠のところに置くんだというぐらいの構想を

立派なよいよい算。算をするのは、関税だけでなく、もう一つの政策である「環境支払い」を提案したいからである。10アールあたり少なめに見積もつても、約10万円の「外部経済価値」を無償で受け取ってきた国民にも負担を負つてほしいのである。

生きものがまだこれほど田んぼや里にいるからこそ、農業は「自然破壊」のそしりを免れる。しかしながら、こんなに生きものが田んぼにいるのだろうか。それは経済価値だけを求めなかつたらうじと仕事がまだ残っているからである。それが棚田ではよく見えるのは、そのようなまなざしを形成する運動があつたからである。したがって、棚田の風景や自然に向かはれたまなざしは、生きものへも向かわなければならぬ。

しかし、分科会に参加していた人のうち、生き物調査をやっているのは10%ぐらいだった。たしかに生き物調査はしていないなくても、見ているのだから、そのままなざしに意味を与え、「方法」にするために棚田サミットは、もう一步を踏み出さなければならない。生きものの力を借りて、農の危機を乗り越えるためには、もっと生きものたちの悲鳴に耳を傾けなければならぬ。分科会で学んで帰った百姓たちに期待したい。

生きものの力を借りる、 といつこと

コーディネーター

宇根 豊

参加者から
で一思考！

愛知県新城市(旧鳳来町)
鞍掛山麓千枚田保存会事務局

松下 誠

♪はるばる来たぜ！ 熊本へー！
新たに、そして感動的な出会いを求めて、毎回楽しく参加しております。

しかし、参加した分科会は「生きもの」の生態紹介に終始し、結果、学習会的な内容が主眼となってしまい、肝心要の「百姓とのつながり」、「共生したコメ作り」等々の話題が希薄になったことは、皆が感じたのではないでしょうか。

いみじくも、我が保存会長からは「自然界の循環摂理を踏まえ、棚田の生きもの生態がどのような恩恵を与えるのかを、掘り下げる必要があるが？」と質疑提言、まさに百姓が地域での課題を話し合う「集い方式」であつてほしいと思ったのは、私だけでしょうか。

「提供資料」は事前配布し、意見や提言などを中心に「話し合いの場」として期待できると考えます。準備の課題もありますが、一考の余地はあると思います。

最後に一言、天候にも恵まれ大変意義深いサミット、「精魂込めてのもてなし」に一同感銘を受け、山都町を後にしました。



第3 分科会

棚田景観を生かした 持続可能な地域づくり ～文化的景観の保全と地域の未来～



第3分科会は現場踏査からスタートした。写真：山都町

コーディネーター：田中尚人氏（熊本大学政策創造研究教育センター准教授）

話題提供者 長井 熱氏（熊本県美里町文化財保護委員）

新開晴美氏（徳島県上勝町教育委員会局長補佐）

本田陽一氏（前通潤土地改良区理事長）

中村豊光氏（山都町・棚田サミット白糸第一地区実行委員会副会長）

「子どもたちへ残さう地域の宝」を念頭におき

コーディネーター

田中尚人

第3分科会では、「棚田景観を活かし
た持続可能な地域づくり～文化的景観の
保全と地域の未来～」をテーマに議論し
たが、まず私たちが念頭においていたのは、

この棚田サミット山都町大会において掲
げられたスローガン「子どもたちへ残そ
う地域の宝」だった。そこで本分科会で
は、矢部高校食農科学科、緑科学科の一
年生たちに参加してもらい、彼らとともに
に棚田の価値・棚田の文化の継承につい
て議論した。

分科会の最初に、まず現場を共有しよ
うと国選定重要文化的景観『通潤用水と
白糸台地の棚田景観』の主要な構成資産
である通潤橋周辺を分科会参加者全員で
踏査し、通潤用水の重要性や、白糸台地
の「ミニユーニティ」について共通感覚を得ま
した。

次に、図書館ホールにて、「子どもた
ちとともに、各地区の棚田の歴史をはじ
め、棚田が持つ歴史の伝承・継続の必要
性について話し合つ」ために、白糸第一
自治振興会大飼集落の有志の方々に、棚
田サミットのお土産として皆さまにもお
持ち帰り頂いた絵本『通潤橋ものがたり
水の渡る橋』の紙芝居を演じて頂いた。
話題提供は4名の方々から頂きました。
通潤地区土地改良区の本田陽一さんは、
糸合地の農家の方々の結束の強さや、命

の源流である通潤用水を「自分たちで
維持管理してきた努力や工夫、そして地
域外の方々とも積極的に協働し未来を見
据えて「一緒にやる」ことが重要である、
という内容。

同じく地元の白糸第一自治振興会の中
村豊光さんからは、地域の「田からもの」
を見つけ、楽しむことが未来に繋がる地
域づくりの秘訣であると、シスター渡辺
和子さんの「置かれた場所で咲きなさ
い」という言葉をモチーフに発表頂いた。

徳島県上勝町の新開晴美さんは、「棚
田で行う普通のこと」を楽しんでもらう
ような持続可能な活動が大切。熊本県地
域おこしマイスターの長井熱さんは、「地
域にあるものを活かす」ことの重要性。
風景は自分たちの集落が受け継いできた
文化の成立基盤である、とご説明頂いた。

白糸台地では、重要な文化的景観選定を
きっかけに、「みんなでやろう!」とい
う意識が生まれ、そのために地域の歴史
や自然、農業について知ることが重要で
ある、という共通認識が生まれた。最後
には、長井さんの「みんなは10年後も、
ここに住んでくれるかな?」という問い
かけに、矢部高校の大半の子どもたちが
「はい!」と元気よく
手を挙げ、会場から
大きな拍手が起きた。

参加者 から

「住民」という
キーワード

和歌山大学観光学部
観光経営学科 3回生

田中直視

この分科会に参加しても印象に残
っているキーワードがあります。それは
「住民」です。今回の分科会のテーマで
もあった持続可能な地域づくりには地域
住民の主導、参加があつて初めて成り立
つものであると私は思います。
「住んで楽しい地域づくり」というお
話が分科会の中で出ましたが、まさにそ
の通りだと共感することができ、住民自
らがその地域での生活を楽しみ、地域を
好きになるような仕組みをつくることが
持続可能な地域づくりに発展するのでは
ないかと考えさせられました。
また、地域づくりの際に「観光」と「保全」
を二極化して考えるべきではないという
お話を印象的でした。それぞれが地域に
与える影響を考え分析することで柔軟で
より良い地域づくりも可能ではないかと
気づくことができました。地域づくりに
ついて様々な視点から深く考えることが
できる分科会であり、とてもいい経験に
なりました。ありがとうございました。

棚田を未来に 引き継ぐ主体と方法

～棚田・地域からの発信～

コーディネーター：中島熙八郎氏（元熊本県立大学教授・NPO熊本地域自治体研究所）

話題提供者 柳田耕一氏（NPO地球緑化の会事務局長）

草野昭治氏（山都町 白糸第一自治振興会会长）

菅純一郎氏（熊本市 菅棚田オーナー 菅里山レストラン代表）

勝目 豊氏（水俣市 村丸ごと生活博物館頭石代表）

高森信之氏（山都町・峰集落）

（第4分科会写真：山都町）

たとえば耕作条件に問題を抱える棚田。それに加えて支えてきた人々の減少、高齢化と後継者難。このような現状の中、第4分科会のテーマは極めて大切なものであると同時に重いものでした。

地元山都町から3人、県内他地域から2人のパネリストの方々からそれぞれの取り組みやお考え、ご意見についてお話をいただきました。共通した論点は、まず「足元を見つめよう」、「自ら、楽しもう」そして「外部の人々との結びつきを広げよう」というものでした。その後のフロアからのご意見、質疑応答も含めますと、いずれの地域にも「後継者難の中、10年後にはどうなるのか」という大きな不安が厳然と存在していました。

熱心な質疑応答では、如何に棚田を守り、引き継ぐ担い手を維持・確保するのかについて悩みや試みが切々と報告されました。その中で、現在の担い手のみなさんが不安を抱えながらも、ご高齢にもかかわらず、実に誠実に棚田を守つておられる状況がひしむしと伝わってきました。

パネリスト発言の3つの共通点は、大事なものであります。それらを実践するには、やはり、持続する主体の存在が必要です。すなわち、担い手としての地元の後継者、外部からの応援や新規

ただでさえ耕作条件に問題を抱える棚田。それに加えて支えてきた人々の減少、高齢化と後継者難。このような現状の中、第4分科会のテーマは極めて大切なものであると同時に重いものでした。

地元山都町から3人、県内他地域から2人のパネリストの方々からそれぞれの取り組みやお考え、ご意見についてお話をいただきました。共通した論点は、まず「足元を見つめよう」、「自ら、楽しもう」そして「外部の人々との結びつきを広げよう」というものでした。その後のフロアからのご意見、質疑応答も含めますと、いずれの地域にも「後継者難の中、10年後にはどうなるのか」という大きな不安が厳然と存在していました。

熱心な質疑応答では、如何に棚田を守り、引き継ぐ担い手を維持・確保するのかについて悩みや試みが切々と報告されました。その中で、現在の担い手のみなさんが不安を抱えながらも、ご高齢にもかかわらず、実に誠実に棚田を守つておられる状況がひしむしと伝わってきました。

我が国の「中山間地域等直接支払制度」はEUの共通農業政策における条件不利益対策をモデルに、画期的な一步を踏み出しました。その更なる充実によって「棚田での米作りを含め、地域の農業で豊かに暮らす」可能性が拓けたのです。サミットの場から、全国の棚田の担い手から「棚田は日本の宝」でありそれを、国を始めとする行政、国民が、直接の担い手の頑張りと共同して支えることが大切であるというコンセンサスづくりが大変なものです。すなわち、担い手としての地元の後継者、外部からの応援や新規

たたでさえ耕作条件に問題を抱える棚田。それに加えて支えてきた人々の減少、高齢化と後継者難。このような現状の中、第4分科会のテーマは極めて大切なものであると同時に重いものでした。

地元山都町から3人、県内他地域から2人のパネリストの方々からそれぞれの取り組みやお考え、ご意見についてお話をいただきました。共通した論点は、まず「足元を見つめよう」、「自ら、楽しもう」そして「外部の人々との結びつきを広げよう」というものでした。その後のフロアからのご意見、質疑応答も含めますと、いずれの地域にも「後継者難の中、10年後にはどうなるのか」という大きな不安が厳然と存在していました。

熱心な質疑応答では、如何に棚田を守り、引き継ぐ担い手を維持・確保するのかについて悩みや試みが切々と報告されました。その中で、現在の担い手のみなさんが不安を抱えながらも、ご高齢にもかかわらず、実に誠実に棚田を守つておられる状況がひしむしと伝わってきました。

ただでさえ耕作条件に問題を抱える棚田。それに加えて支えてきた人々の減少、高齢化と後継者難。このような現状の中、第4分科会のテーマは極めて大切なものであると同時に重いものでした。

地元山都町から3人、県内他地域から2人のパネリストの方々からそれぞれの取り組みやお考え、ご意見についてお話をいただきました。共通した論点は、まず「足元を見つめよう」、「自ら、楽しもう」そして「外部の人々との結びつきを広げよう」というものでした。その後のフロアからのご意見、質疑応答も含めますと、いずれの地域にも「後継者難の中、10年後にはどうなるのか」という大きな不安が厳然と存在していました。

熱心な質疑応答では、如何に棚田を守り、引き継ぐ担い手を維持・確保するのかについて悩みや試みが切々と報告されました。その中で、現在の担い手のみなさんが不安を抱えながらも、ご高齢にもかかわらず、実に誠実に棚田を守つておられる状況がひしむしと伝わってきました。

参加者から

人が住み、収益が上げられる経営が成されることで棚田は守られる

山形県上山市農林課 長橋康夫

分科会「棚田を誰がどう守るのか」での実践活動を聴きながら、脳裏に浮かんだのは、私の居る山村の山奥にある棚田で78歳のサイキチさんとマサコさんが稲刈りをしている姿だった。数日前に実際にそれを目にしていたので、その情景と発表とが重なり合った。

もうすぐ日が暮れようとしているなか、丸まつた背の老農夫がバイインダーを動かし、腰の曲がった奥さんが稲束を拾い集めていく。悲しいかな、この情景こそが全国どこの山間地でも見られる現実である。毎年その時が来ると、文化人や有識者、マスコミとあらゆる人が決まり文句のように棚田の大切さを説き、森林の危機を叫ぶ。けれども問題は、コメを作る人や森を守る人、つまり、山村から働く人が居なくなっていくことなのである。

発表された各地の取り組みから強く思つたのは、「人が住み、コメが作られ、そこから収益が上げられる。」ことに、人が住み、コメが作られ、そこから収益が上げられる。」ことに、

極めて大切であり、重いテーマ
：克服に向けて

コーディネーター

中島熙八郎



長議 首会議

美しい棚田は、日本人の精神風土の原点 コーディネーター 中島峰広（NPO法人棚田ネットワーク代表）

担い手の確保をテーマにして議論した。

まず、昨年のサミットで上勝町（徳島県）の笠松和市町長が持論とする中山間地域等直接支払を環境支払いとして位置づけ、現行の10倍（急傾斜地の場合10アール当たり21万円）にすれば、担い手の確保に展望が開けるという主張があげられて述べられた。それに加え、担い手の確保に結びつく政府の施策として

「人・農地プラン」と「地域おこし協力隊」が取り上げられた。

「人・農地プラン」は農林水産省が本年度から始めた施策、平地で20～30ヘクタール、中山間地で10～20ヘクタールの規模を持つ地域の中心となる経営体を創出しようという事業であり、創出できれば担い手確保のサポートとなる青年就農給付金の支給が認められることになると想定している。

すなわち、経営開始型の場合、給付金が45歳未満の新規就農者に年間150万円、最長5年間支給されるというもの。この事業については、2～3の行政から廃校になった小学校の校区規模でプランを作成中という報告があった。

また、徳島県上勝町では中心経営体の創出に先行させて新規就農者を募っているという事例が紹介された。

「地域おこし協力隊」は、青年海外協力隊の国内版として、2009年に総務省が始めた事業であり、過疎・高齢化した地域に都市住民が住民票を異動させて移住・支援を行う場合、最長3年間、年間350万円を支給するというもの。2012年10月現在、新潟県十日町市14名、静岡県松崎町1名、長崎県長崎市3名の協力隊員が在住、地域の活性化に寄与しているという報告があった。

首会議写真：山都町

有田川町へ「みんなでつれもとさへよ〜」

和歌山県有田川町 町長 中山正隆

通潤橋で有名な熊本県山都町でのサミットは、快晴に恵まれ当初の予定を上回る多くの方が参加されて大盛況でした。この日のために準備を重ねられた甲斐町長を始めとする関係者の皆さまにごちは、このうえない慶びであったと思われます。

サミット全般を通じて特に印象的であったのは、山都町に暮らす

方々の心の優しさでした。オーラフィングを担った矢部小学校の子どもたちや全体交流会・現地見学会における地域の方々の温かい心に触れ、このサミットに参加したすべての人々の様々な趣向を凝らしたおもてなしに感服するひとむじ、そこには至るまでの労苦や経過を考えますと万感の想いが込み上げてしまひました。

さて、第19回全国棚田（千枚田）サミットを平成25年11月8日、9日の2日間にわたり開催する和歌山県有田川町は、紀伊半島を東から西へ流れる有田川に沿って集落が形成され、周囲には柑橘類の栽培を主とした畑地と山々が広がっています。また、町の中央部から東部にかけては、典型的な中山間地域であり、特に清水地域においては豊かで清らかな水を利用した米作りが行われています。しかし、近年は後継者不足が深刻化し、また、高齢化率の上昇が著しいため、當々と継続してきた農地保全が危機に瀕しております。

今回のサミット開催は、恵まれた自然環境を先人から承継し、未来へ伝達していくことを根底に、棚田の現状とそこで暮らす人との関わりをあらためて見つめ直し、今後のまちづくりに活かしていく機会といふてあります。是非全国の皆さまにお越しいただき、段々畑に錦なりに実るみかんと棚田を駆け抜けける風を感じていただきたいと考えています。



有田川町清水 あらぎ島棚田



有田川町清水 沼の棚田
(写真:和歌山県有田川町)





現地住民ガイドより菅地区での特徴的な取り組み報告があつたので紹介する。

菅地区は市農林商工観光課
菅地区棚田オーナー制度
17組の登録があり、1aあたり3万5000円

平成8年より取り組み今年で16年目

休耕田を活用し、オーナーが自ら全作業（田植、草刈り、収穫など）

40kgの収穫がある。

②里山レストラン（縁側カフェ）▼

7軒の農家の縁側を開放し、お茶や簡単な料理を提供（500円）する。また、閉校した小学校を加工所として活用し、オーナーの努力次第で収穫量は異なるが、1aあたり平均40kgの収穫がある。

菅地区の活動は「行政に頼らない地域づくり」がモットーという言葉があった。地域住民が「自分たちの棚田・集落は自分で守っていこう」という意識の高さがうかがえる言葉である。押しつられて行う活動は長続きしない。私は行政という立場であるが、地域（棚田）と都市住民が継続して交流できるような地域（棚田）活性化のための橋渡しの役割として地域主体の活動を進めて行ければと感じた。

今回のサミットでは、各種事例発表や分科会で、今後の棚田の保全が共通の話題となつており、オーナー制度、都市との交流事業等さまざまな取り組みが報告された。重要であることは、一人でも多くの方に訪れてもらい、地元を知つてもらい地元の思いを伝えること「おもてなしから一歩進んで、みんなで一緒に棚田を守っていく心」が棚田保全の次のステップではないかと感じた。

うきは市においても九州北部豪雨災害からの復旧が急務であるが、災害からの復興は集落再生が第一である。地域住民とのコミュニケーションを密にして、地域が喜び生きがいを見出し、活力気力を向上させて地域・行政・各種団体が連携し組織として、この時代にあつた新しい形で棚田復興に取り組んでいければと考える。

菅地区の畦が交互に並び、畦に植えられた柿は実がたくさん実つて、重たそうに枝をもたげている。何とも懐かしさを覚える風景で、到着した誰もがここでシャッターを切つていた。

急な坂道をさらに登つて行くと、白いテントの下、明るい笑顔で地元の方々がおいしいお茶とともにもち飴を振舞つてくれた。お茶を頂きながら周りを見渡すと畠に混じつてピーマンやお茶の畑が点在し、テントの奥では布田神社が棚田を見降ろしている。田んぼの脇には水路が走り、さわやかな風と共にゆっくりとした時間が流れれる。なげなく調和したのどかなこの風景は、地元の方々の知恵と努力に支えられながら形作られ、維持されてきた風景である。

嘉永福吉井手の設置は、峰地区および島木地区を潤し、棚田を成立させた160年も前の人々の知恵である。また、現在島木地区ではグリーンツーリズムにも力を入れ、春の山菜期や秋の収穫期はもちろん、昔ながらの祭りを継続するともに、様々な工夫を凝らし、新しい祭り事を開催して積極的に都市住民を招いている。

「懐かしい未来を生きている感覚」。これは棚田現地見学会前に行われた分科会で棚田耕一氏が山都町を表現した一言（聞き違いであつたら申し訳ない）であるが、峰棚田を訪れて、改めて思い返した。古さや受け継がれてきたものを大切にし、その中に新しさを見つけ出す。峰地区も“懐かしい未来”であり得るのではないか。

帰り際、農家の方々が協力し合つて農道の整備をしている写真が目についた。峰棚田が地域の人々の深い繋がりによって維持されてきたことをその一枚の写真が物語つっているよう思えた。また、帰りのバスは多くの村人が手を振りながら笑顔で見送ってくれた。峰地区の人々の繋がりの強さと愛情は、確かな力強さを感じさせる魅力に溢れていた。

菅地区の畦が交互に並び、畦に植えられた柿は実がたくさん実つて、重たそうに枝をもたげている。何とも懐かしさを覚える風景で、到着した誰もがここでシャッターを切つていた。

急な坂道をさらに登つて行くと、白いテントの下、明るい笑顔で地元の方々がおいしいお茶とともにもち飴を振舞つてくれた。お茶を頂きながら周りを見渡すと畠に混じつてピーマンやお茶の畑が点在し、テントの奥では布田神社が棚田を見降ろしている。田んぼの脇には水路が走り、さわやかな風と共にゆっくりとした時間が流れれる。なげなく調和したのどかなこの風景は、地元の方々の知恵と努力に支えられながら形作られ、維持されてきた風景である。

嘉永福吉井手の設置は、峰地区および島木地区を潤し、棚田を成立させた160年も前の人々の知恵である。また、現在島木地区ではグリーンツーリズムにも力を入れ、春の山菜期や秋の収穫期ははもちろん、昔ながらの祭りを継続するともに、様々な工夫を凝らし、新しい祭り事を開催して積極的に都市住民を招いている。

峰地区の畦が交互に並び、畦に植えられた柿は実がたくさん実つて、重たそうに枝をもたげている。何とも懐かしさを覚える風景で、到着した誰もがここでシャッターを切つていた。

急な坂道をさらに登つて行くと、白いテントの下、明るい笑顔で地元の方々がおいしいお茶とともにもち飴を振舞つてくれた。お茶を頂きながら周りを見渡すと畠に混じつてピーマンやお茶の畑が点在し、テントの奥では布田神社が棚田を見降ろしている。田んぼの脇には水路が走り、さわやかな風と共にゆっくりとした時間が流れれる。なげなく調和したのどかなこの風景は、地元の方々の知恵と努力に支えられながら形作られ、維持されてきた風景である。

菅地区の畦が交互に並び、畦に植えられた柿は実がたくさん実つて、重たそうに枝をもたげている。何とも懐かしさを覚える風景で、到着した誰もがここでシャッターを切つていた。

急な坂道をさらに登つて行くと、白いテントの下、明るい笑顔で地元の方々がおいしいお茶とともにもち飴を振舞つてくれた。お茶を頂きながら周りを見渡すと畠に混じつてピーマンやお茶の畑が点在し、テントの奥では布田神社が棚田を見降ろしている。田んぼの脇には水路が走り、さわやかな風と共にゆっくりとした時間が流れれる。なげなく調和したのどかなこの風景は、地元の方々の知恵と努力に支えられながら形作られ、維持されてきた風景である。

日本大学大学院生物資源科学研究科 博士後期課程1年

七海絵里香

「懐かしい未来」の峰棚田を訪れて

菅

峰

白

糸

円形分水工からスター
トし、通潤橋も

鴨川市中山間地域活性化協議会・千葉県鴨川市棚田農家

白糸地区の見学は、通潤用水路へ水

を送る円形分水工の見学からスタートしました。そして、白糸台地の地形に合わせ工夫された用水路、通潤橋、そして水量の豊かさを目

にしながら歩きました。町民の方々は、大変とはいえ、すばらしい先人たちのおかげで幸せな棚田耕作ができるのだと思いました。

見学は、徳島県上勝町の方々と歩きました。樺原の棚田をはじめ、ほか3地区から来られていました。地元手作りのかしを見ながら、食事の会場にたどりつきました。館の中で

は、自分と同年代のスタッフが出迎えてくださいましたね。

私の立場は、棚田と中山間地域等直接支払制度を含む、營農継続のために頑張っておりますが、いずこも同じで大変でかしを見ながら、食事の会場にたどりつきました。館の中で

は、自分と同年代のスタッフが出迎えてくださいましたね。

農継続のために頑張っておりますが、いずこも同じで大変で

す。全国の人たちと、棚田という共有財産の有効活用を考え

ていく棚田サミット。こうした機会も大事だと思います。

天候にも恵まれ、楽しいひとときでした。ありがとうございました。

鈴木一郎



峰棚田（写真：七海絵里香）



通潤橋より約6km上流の、通潤橋に水を運ぶための円形分水工からはじめた（右）。布田保之助を祀った布田神社のあとは通潤橋へ。どこへ行くても地元のガイドさんが待機して解説（下右）。

下写真は、ライステラス60号の取材でお世話になつた草野昭治さん（左）と岩崎鈴雄さん（右）

棚現見



地元ガイドによる説明
(写真:NPO法人大山千枚田保存会
浅田大輔)

菅地区に建つ里山レストラン・縁側カフェ案内看板
(写真:中山和成)



地元ガイドによる説明
(写真:中山和成)



菅地区的棚田 (写真:中山和成)

お昼は、菅のみなさんによる手作り弁当。週末、菅の里山レストランに予約をすれば、お弁当を用意してくれ、縁側カフェ等で食べることもできる。小さなおもてなしのがいっぱいあった (写真右)。(写真:山都町)



黄金色の峰棚田 (写真:七海経里香)



峰棚田で振る舞われた
お昼のお弁当。器は割った竹。器の準備からもてなしの心がいっぱいだ。
写真右は、お接待の様子
(写真:山都町)



白糸台地のなかで、天日干しを下ろし、わらを積む作物が見られた(右)。右下写真は「白糸棚田に感銘する秋田県からの参加者」(写真:秋田県農山村振興課船木孝則)



280食用意されたという、白糸地区女性陣による手づくり弁当。いきなりだんごは、80代のおばあちゃんが一人で作り上げた。お弁当のほかに、テーブルに料理がてんこもりだった。右写真は、裏方に徹していた白糸の女性たち。体育馆の入り口には、実をたわわにつけたあけびの木がそのまま持ち込まれ、迫力あるウエルカムコーナーに(上右写真)。その前で下田美鈴さんをバチリ。「民泊からお弁当づくりまで寝ていないほどよ」



菅

全国の棚田に関心を持つ つ方々の来町に驚いて

菅地域振興会 会長

渡邊正弘

棚田って何か——。どういう田んぼか
知らない人もいるようです。棚のように、山の中腹まで並んで
いる田んぼのことです。
また、棚田はどんな役割を持っているか——。
棚田は農作物を生産するだけでなく、環境保全、また国土
保全をしています。大雨が降ったとき、洪水防止、災害防止
に役立ち、貯水力を保ちます。またやすらぎを与える石垣など
文化資源にもなっています。棚田は地域の宝です。
そんな棚田の全国サミットが山都町で開催されました。
第18回の山都大会に全国各地より参加者があるだろうか。
また受け入れができるだろうかと心配していました。でも、
全国の棚田に関心を持つ方々の来町に驚きました。受け入れ
も実行委員長をはじめ、各担当のお世話により盛大に開催す
ることができました。

全体を見てみると、農家だけでなく、都会の方々、非農家
の方々の参加も必要であるように思いました。棚田の良さを
はじめ、農家の苦労、食の安全性などを勉強してもらえると
思います。

また、2日目の棚田見学の準備については、もてなし班と
して看板作り、農道の除草、棚田の除草、花植えを8月より
行い、明るい地域を作り、来客を迎えるました。昼食は菅の棚
田米として味わってもらいたいと
思います。来年の
和歌山県有田川町
のサミットが楽し
みです。



菅で出迎えてくれたかかしの一つ
(写真:NPO法人棚田LOVER's 永菅裕一)

峰

峰の棚田から次のサミットへ引き継ぐために

山都町島木自治振興会 会長

甲斐鴻生

棚田は、経済成長や効率化という時代の潮流を受け入れられなかつた地形的条件下にあります。ですから、その土地の所有者や地区の人たちに棚田保全の意欲がなくなると、地すべりや斜面崩壊の危険地域に一変することは、疑いようのない自然の理といえます。

「棚田サミット」は、こうした棚田のリスクマネージメントを意見交換し、立案し、計画への道筋を探る場であるべきだと思います。関係者が集まることに意義があります。けれども、お互いの「苦労の慰め合い」の色合いが濃かつたと思えてなりませんでした。

そして、分科会討論に関しては、棚田保全、維持、引き継ぎのためのリスクとその解決策を見いだすことの目的を明確に、コーディネーターやパネラーの方々に「意識づけ」を示す必要もあつたかと思っています。

地域の事情は、棚田を守っている当事者や地域が一番よく知っています。せっかく棚田地域で開催するサミット。外部や関心のある人たちに呼びかけ、地域おこしの重要性を自身の自己開発につなげるためにも、地域の誰もが参加する「人おこし」「地域おこし」として、現地で開催することはできなかつたのでしょうか。

一方で、棚田保全、維持の方法を伝統とした行事や知恵を「体」で覚え、実践してきた「生き字引」たちが現役のうちに、これらを伝承し、なしえなかつた思いを広く伝える工夫がなされる必要もあつたのではないか。

今後は、行政が関与し、実践で懸命に努力する姿以上に、手作りのために、行政はサポート・アドバイスに徹するサミットが今後求められる「形」ではないかと考えます。

さらに、「人・農地プラン（地域農業マスター・プラン）」と棚田保全との相反する命題について、その整合性には困難が多いと見てています。今後の議論に期待したいと思います。

もてなしの
現場から



菅で出迎えてくれたかかしの一つ
(写真:NPO法人棚田LOVER's 永菅裕一)

白糸

サミットに取り組んだ住民の絆 をこれから活動の原動力に

白糸第一地区自治振興会 会長

草野昭治

全国棚田サミットに出席いたしました、本当に疲れ様でした。今回の棚田サミットに向けて私たちの地域でも1ヶ月に実行委員会を立ち上げ、行政との実行委員会も合わせて10数回の実行委員会を行い、地域住民の意見を出し合い検討を行いました。

3日間のサミットを終え、出席された皆さまから素晴らしい大会だった。また、現地のもてなしも良かつたとの声を頂き、地域住民全体の協力と大会に出席された皆さまの棚田サミットに対する深い理解とご協力に心よりお礼と感謝を申し上げます。

さて、今回の基調講演では、私たちの地域の「白糸台地の棚田から見えてきたもの」との内容で講演が行われ、私たちの集落の歴史が詳しく説明されました。全国大会の講演に地域のことが発表されたことに感動と興奮を感じました。

改めて、地域の素晴らしさを実感し、重要な文化的景観に選定された意味を考えることができます。ただ、もつと地域からの参加ができる大会であつたら良かったのにとも思いました。

この講演と、サミットの成功に向けて取り組んだ住民の絆をこれから活動の原動力としてつなげていけたらと考えています。

現地見学については、いかがでしたか。白糸台地には外部の参加者が170名、地元から100名の参加でした。歴史の学習会やガイドの勉強会を行い、改めて地域のことを学ぶことができ、これからも地域の歴史について住民へ図つていきます。

現地見学のもてなしの打ち合わせで、住民から花を植えようかとか、カカシを作つたらどうか、体育館の飾りはどうするのか、パネルについては等、いろいろな意見が出て盛り上げたいと改めて感じました。

現地見学のもてなしの打ち合わせで、住民から花を植えようかとか、カカシを作つたらどうか、体育館の飾りはどうするのか、パネルについては等、いろいろな意見が出て盛り上げることができます。草刈りの重労働やイノシシ・シカ等に対する対策や費用の問題、高齢化に伴う後継者不足、またTPPに対する脅威等山積みです。

豊かな自然、伝統や文化を守つていく上でも国の政策としての棚田保全の確立が明確に打ち出されることを願い、これらのことと今後、棚田サミットの目標とした活動を期待します。また今後は、生産者と行政その関係者だけではなく、消費者も参加できるサミットであれば、もっと棚田についてポジティブに取り組めるのではないかと提言します。

もてなしの
現場から



峰でのおもてなし
(写真:山都町)



千賀裕太郎さん

東京農工大学教授・棚田学会会長
(本協議会個人正会員)

吉村豊雄教授による「棚田の歴史をさかのぼる」と題する基調講演で明らかにしていただいた、白糸台地に棚田が開かれてきた幕末の歴史が、とても感動的でした。その知識をもって、あらためて通潤橋をわたり、周囲に展開する棚田を眺めると、あらためて棚田地域を守ること、そしてそのために「棚田」の周りに毎年これだけの人が全国から集合していくことの重要性が再確認できました。

会場で棚田学会や棚田支援市民ネットワークの方と雑談しているときに、来年度は私たちもオリジナルな「棚田はっぴ」を作るなどして、少し目立つ格好で参加しよう、などと盛り上りました。



石橋万里子さん

鬼木棚田協議会(長崎県波佐見町)

最も印象に残ったのは「耕作放棄地じゃなく、耕作断念地です！」という分科会でのコーディネーターの一言です。

確かに急峻な棚田では、その開墾の努力と同様にその維持管理に相当のエネルギーが必要です。高齢化・後継者不足・有害鳥獣問題を共有する棚田の関係者にとって、「断念」せざるを得なかつたと言われることで、少し救われる気持ちになりました。水稻だけでは生活ができない農家の苦労が、街のみなさんに届くよう発信をし続けなければならないと感じました。

山都町では、オーナー制度による都市との交流や出身者の発案で、新たな事業を展開されようとしています。補助金などの金銭的な支援はもちろんですが、人的財産の形成が重要と改めて思いました。

通潤橋を愛している町の方々の、心のこもったおもてなしに感謝します。

祖先が、厳しい自然の条件と闘いながら山野を拓き、築き上げた農地で、私たちの生きる糧をはぐくんでくれる棚田 この農地こそが我ら日本の農業の生きざまであったのではなかったのではないか。

しかし、時代の変遷と共に食料の生産だけでは所得格差は益々拡大するばかりです。これからは新しき考え方の農業生産、価値ある農産物の育成と担い手の育成に頑張らなくてはならないと思います。

私たちの岐阜県郡上市白鳥の正ヶ洞（しょうがほら）棚田は日本ど真ん中に位置し、白山の文化と歴史のある土地柄であり、長良川の源流でもあり四季の景観も素晴らしい所です。

白山表参道の中にあり、昔ながらの石畳の道も残る棚田であります。高齢化社会の中で棚田の管理をこれからどうすすめて行くべきなのかと考えて棚田サミットに参加させていただきました。来年の和歌山には大挙して参加したいと思います。



松下和照さん

樺原の棚田村代表
(徳島県上勝町・本協議会個人正会員)

こんにちは。昨年第17回棚田サミットでお世話になり、全国津々浦々からお越し頂いた上勝町、樺原の棚田村の松下です。昨年の

お礼を兼ねて、上勝町から山都町へ22名が参加しました。通潤橋を苦労の末築き、水の渡る橋・水路をつくり、広大な畠地を水田に一変させ、白糸台地を救った布田保之助翁……。160年前、水によって救われた尊い事実を目の当たりにし、すばらしい第18回サミット、感動の2日間となりました。たいへんお世話になりました。

日野智之さん

愛媛県・西条市農業水産課

愛媛県西条市にも、先人たちが嘗々として築き上げてきた郷土が誇る棚田があります。しかしながら、高齢化や後継者不足等により荒廃が進んでおり、これを何とかして再生し将来に繋げたい！～これが今回のサミットに参加したきっかけです。

そして今回最も印象に残ったことは、山都町の皆さん、通潤橋に誇りと愛着を持って日々の農業に取り組んでいらっしゃることであり、目指すべき方向性は同じであると感じました。



柳原隆徳さん

島根県農村整備課

昨年度から「棚田の保全」に関わるようになります。全国棚田サミットへは2回目の参加となります。現地見学会の「菅の棚田」では、棚田オーナー、里山レストラン、縁側カフェなど多様な交流活動が行われており、大変参考になりました。島根県でも、県、市町、棚田保全組織で構成する「しまねの棚田ネットワーク」を設立し、連携して棚田地域を守って行く取り組みを行っていますので、今後の保全活動に役立てたいと思います。

※詳しくは、<http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/seibi/tanada/>



松山峯雄さん

正ヶ洞の棚田を守る会代表(岐阜県郡上市白鳥町)



(写真左・松山さんと棚田耕作者の井口勝さん)



藤田 裕さん

富山県農林水産公社設計管理課
(とやま棚田ネットワーク事務局)

毎回参加をしています。
各地棚田の法被を着た皆さ
まのパワーには感心します。
第1分科会では、3万5千円
のオーナー料金は高いか、
安いかまた、コメの価格は
10倍してもおかしくない、
などの意見交換があり興味
深く聞きました。

棚田見学では、地元の方
とオーナーさんが一緒にな
り、休憩や昼食のお世話を
されていました。棚田を守
る一体感が伝わり、美味し
くいただきました。

青空の下通潤橋の放水、
おいしい酒と肴を満喫し、
あらためて棚田保全活動に
意欲がわきました。



山崎真莉奈さん

静岡県農地保全課

私は、本年度静岡県の棚田保全ボランティア「し
ずおか棚田・里地くらぶ」の担当になって、初めて
日本全国にこんなにも多くの棚田があるということ
を知りました。昨年までは田んぼに入ったことすら
なかった私ですが、そんな私に丁寧に作業の指導を
してください農家の方々や、サミット参加者の皆さ
んの棚田への熱い想いに触れ、今後も各地の棚田保
全の取り組みについて知り、そして参画していきた
いという気持ちが一層強くなりました。

照本茂法さん

木場中山間管理組合(長崎県川棚町)

今回初めて、全国棚田サミットに参
加しました。分科会で、各地区の棚田
保全活動の発表があり、高齢でありな
がら、リーダーシップを發揮されてい
た、水俣市頭目地区の取り組みが印象的
でした。

「村まるごと生活博物館」と称して、
棚田自然環境を地元小学校総合学習で
実践し、そのすばらしさを子供たちに
伝える一方、地元の天然素材を生かし、
薬草200種類の加工、各種農産物の加
工販売等々と、すばらしい取り組みをなされており、保全活動の参考にしたいと思いました。



(写真は木場中山間管理組合の皆さん。後列左から2番目が照本さん)
(写真は木場中山間管理組合の皆さん。後列左から2番目が照本さん)



吉本泰士さん(左)、下田英盛さん(中)、 植田健太さん(右)

3人とも山都町立矢部中学校3年1組

現地見学では、バス1台に対し地元中学生1人ずつが
お手伝いを兼ねて参加。希望者多数でその中から運良
く選ばれて参加したという。昼食会場で合流した中学生
たちをパチリ。

「全国の棚田の事情や特徴など話が聞けて良かった」
(植田さん)、「手伝うことが意外に少なくて、ちょっと
残念。通潤橋や棚田のすごさがわかった」(下田さん)、
「参加していたみんなが元気で、いろいろな話が聞け
て良かった」(吉本さん)



山本 茜さん

和歌山大学観光学部観光経営学科・
棚田ふあむ

現地見学会の道中、手づくり
のかかしと共に、見学者に向
かれたメッセージがあり、「来
年有田川町で会いましょう」と
いうメッセージを見て、とても
嬉しく思ったのが印象的です。
直接ふれあわない場面にも、ま
ちの人のおもてなしの心があり
ました。このように、まちの人の
理解と協力があって、棚田サ
ミットは成り立つのだと改めて
実感させられた瞬間でした。



堀江寛子さん

料理研究家(和歌山県有田川町)

1日目、私は第4分科会に参
加しました。豊かな里山作りを知り
得ることができました。会場では
多くの問題が質問されました。サ
ミットでも、棚田がかかえる問題
を解決できる話し合いは無理だ
ということを改めて知ることができ
ました。

2日目、菅の棚田。棚田農家と
観光作り。もう一度訪ねて來たい
との思いに駆り立てられました。
小さい小さいおもてなしもたくさん
見つけました。バスに笑顔で手
を振っている(ように見えた!)
かかしさん。ありがとう!! ま
るで、地域の人の少なさを補うか
のような、素敵なかかしが作って
ありました。来年は、和歌山県の
有田川町での開催です。ぜひ、お
越し下さい。



交流会会場にて。ステージに上がった
有田川町関係者たち

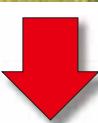
「つづら棚田の災害状況」

つづら棚田再生実行委員会事務局長
うきは市教育委員会生涯学習課

関 健児
石井健太郎



土砂灾害発生前のつづら棚田の様子
(赤線内が土砂灾害発生箇所)



土砂崩れにより大きな被害を受けたつづら棚田【7/25撮影】

うきは市では、平成24年7月13日から続く記録的豪雨で、14日には未曾有の災害が発生しました（平成24年7月九州北部豪雨）。日本の棚田百選に認定を受けているうきは市内「つづら棚田」においても大規模な土砂崩れが発生しました。あまりの激しい雨に危険を察知したつづら棚田地区の住民は、近隣の「つづら棚田交流センター」に避難していく難を逃れましたが、住宅5軒中3軒が全壊。石垣や水路など50か所以上が損壊し、今季は一部の農地を除いて稲の収穫にこぎ着けられたものの、来季以降、稻作を続けられる見通しは立っていません。

毎年9月につづら棚田地区を中心に行催されているイベント「棚田inうきは彼岸花めぐり」も今年は中止を余儀なくされました（棚田百選つづら棚田のふもとまでは車両通行可能、復興支援を目的に、交通案内と物産店を中心に規模を大幅に縮小して対応）。

しかしながら1月以降は一歩ずつ復興への歩みが始まりました。甚大な被害を受けた「つづら棚田」復興へ向け、地元住民有志が「つづら棚田再生実行委員会」を発足しました。10月3日には初会

合を開き、募金を活動の柱に据えて、棚田の石垣の修復に取り組む方針を打ち出しています。また、うきは市浮羽町新川地区の地域イベント「棚田の里のお月見会」が10月6日に開催され、約900個の灯火に彩られた棚田で市民バンドによる音楽演奏などが繰り広げられました。地域住民や、棚田を守る会会員などで構成する「新川の景観を守る会」（岩佐捷

ばなどの飲食コーナーが設けられ、会場には焼き鳥、かつば酒、そして、棚田の石垣の修復に取り組む方針を打ち出しています。また、うきは市浮羽町新川地区の地域イベント「棚田の里のお月見会」が10月6日に開催され、約900個の灯火に彩られた棚田で市民バンドによる音楽演奏などが繰り広げられました。地域住民や、棚田を守る会会員などで構成する「新川の景観を守る会」（岩佐捷

ばなどの飲食コーナーが設けられ、会場には焼き鳥、かつば酒、そして、棚田の石垣の修復に取り組む方針を打ち出しています。また、うきは市浮羽町新川地区の地域イベント「棚田の里のお月見会」が10月6日に開催され、約900個の灯火に彩られた棚田で市民バンドによる音楽演奏などが繰り広げられました。地域住民や、棚田を守る会会員などで構成する「新川の景観を守る会」（岩佐捷

ばなどの飲食コーナーが設けられ、会場には焼き鳥、かつば酒、そして、棚田の石垣の修復に取り組む方針を打ち出しています。また、うきは市浮羽町新川地区の地域イベント「棚田の里のお月見会」が10月6日に開催され、約900個の灯火に彩られた棚田で市民バンドによる音楽演奏などが繰り広げられました。地域住民や、棚田を守る会会員などで構成する「新川の景観を守る会」（岩佐捷

ばなどの飲食コーナーが設けられ、会場には焼き鳥、かつば酒、そして、棚田の石垣の修復に取り組む方針を打ち出しています。また、うきは市浮羽町新川地区の地域イベント「棚田の里のお月見会」が10月6日に開催され、約900個の灯火に彩られた棚田で市民バンドによる音楽演奏などが繰り広げられました。地域住民や、棚田を守る会会員などで構成する「新川の景観を守る会」（岩佐捷



土砂崩れにより崩壊した住宅等【7/25撮影】



新川の景観を守る会による復興作業の様子
【平成24年8/6撮影】

10月に発足しました「つづら棚田再生実行委員会」では振り込みによる寄付を受け付けています。福岡銀行吉井支店「普通預金2529109」及び、ゆうちょ銀行「店番748」「口座番号5882900」名義はいずれも「つづら棚田再生実行委員会」

問い合わせ先(090-8768-5488)
【会長：堀万治 事務局長：関健児】

個人会員の会 活動費補助報告

舞鶴市西方寺平棚田オーナーの会が滋賀県の取り組みを学ぶ！

私たちの研究室では、平成11年度から京都府舞鶴市西方寺平で、棚田オーナーを続けています。学生に農村の暮らしや農の営みを感じてもらうこと、また棚田の魅力を感じてもらうことを目的としています。受け入れているのは、西方寺平棚田オーナーの会です。オーナーの募集と田植え・稻刈り・収穫祭の日程調整は舞鶴市が支援します。その他にオーナーは、除草作業として3回位現地へ赴きます。

最後の収穫祭では、地元のお母さんたちが中心になつて作ったお料理が並びます。新米のおにぎり、地元特産卵のゆで卵、地元で作った味噌のお味噌汁、廢棄の焼き鳥、鳥獣害対策として捕まえた猪の焼肉、柿と大根の白和えなどが並び、お餅つきもします。お餅は、白餅と玄米餅が並び、それぞれ、きなこ、納

西方寺平での稻刈り風景 稲刈なのに田植えのように泥だらけ。

豆、大根おろし、せんざいとな
ります。もちろん、私たちも一
緒に作りますが、お餅つきの手
つきは地元のお父さんたちにな
かなかかないません。

このたび、本助成金を受けた
ので、いつもとは違う取り組み
を一つすることになり、201
2年10月10日、秋の気配が漂う
中、西方寺平棚田オーナーの会
会長の泉金雄さんと共に、滋賀
県農政水産部農村振興課で滋賀
県の棚田保全事業をお聞きし、
その後、棚田オーナー制を実施
しておられる大津市平尾地区と
高島市畑地区にお邪魔しました。
せっかくなので、京都府の担当
課の方もお誘いし、学生と合わ
せて5名で参りました。

最初に滋賀県での取り組みを
県庁でお聞きしました。滋賀県
では、棚田保全のため、棚田ボラ
ンティア、棚田トラスト制度
が実施されています。本取り組
みで特徴的なことは、棚田ボラ
ンティアをすると、各地区が發
行する「地域通貨」がもらえる
ことです。ただ、地区によつて
は実施していないところもあります。
今回、見学した大津市平
尾地区と高島市畑地区は実施し
ており、平尾地区では「1仰
木」、畑地区では「1ハーハ」
という単位です。この遊び心感
覚が、多様な方を地域に関わら
せることにつながっていると思
いました。例えば、平尾地区で
は、山奥の棚田でたくさんの方
古屋コートを放し飼いし、ビ

オトレープを作り、無農薬・無施肥・不耕起でお米を育て、田舎ならではのスローライフを楽しんでおられました。他にも、通い農作業をしている方や、写真家の方など、多様な方が平尾地区をフィールドに集まっています。近くにある温泉町の3つの旅館で温泉に入れます。現在、温泉側は地域貢献と考えて無償で提供しています。また平尾地区では、地元住民だけがオーナーを受け入れているのではなく、地元以外の住民も一緒になつて「守り人の会」(もりびとのかい)と、いう組織を立ち上げて、オーナーの受入、棚田や里山の保全などに取り組む珍しいタイプです。中には、オーナーから守り人の会の会員になつた人もいます。一方、畑地区は棚田百選に選ばれただけあって、傾斜のある美しい景観でした。畑の棚田を見たときに、規模は全く違うのですが、中国雲南省の広大な棚田を思い出しました。すると、地元の方から、昔大陸から渡ってきた秦氏(せんし)がここで定住したと言い伝えられているとお聞きし、私の勘もまんざらではないと少し得意げになつておりました。ここ畑地区でも、昔廻の家の家を新築で建て、地元の方ともつながりを持つつ田舎暮らしと都会暮らしを行う二地域居住を楽しめている方がおられました。そのお一人は夫婦で別々に住民票を置いているとい

うことでした。住民票を握り、地域活動にも地元住民との認定する」ということが聞かれます。棚田は1枚あたりの面積の小さいのが農業にとっていいのですが、いでの遊び場、すなわち学習しては最高の場所ではないでしょうか。棚田の小ささをメリットと言われますが、農を遊びと捉えたライフスタイルの構築は、都市の人の手かもしれません。また保全に向けて、オーナーの制をはじめとする棚田の多様な利用方法は、これから日本流ライフスタイルとして提唱してもよいのではないかと思いました。

「空気の良いところで天然水を飲み、新鮮な農作物が食べられるって素敵らしい」。西方寺平の農家さんの言葉です。自分が住んでいるところを褒められる生き方って素晴らしいと思います。ぜひ多くの棚田地域の方に、もこの言葉を次世代に伝えてほしいと思います。

最後になりましたが、滋賀県農政水産部農村振興課、大津市平尾地区、高島市畠地区の皆さんに、大変お世話になりましたこと、心より感謝します。この場をお借りして御礼申し上げます。



畠集落の棚田



平尾地区の地域通貨「1仰木」

「個人会員の会活動費補助金」は、個人会員がかかわりを持つ棚田保全活動の中から、良質な活動を応援するために、全国棚田（千枚田）連絡協議会が予算化しているものです。上記報告は平成23年度個人会員の会活動費補助金が活用されています。次号でも引き続き、平成23年度の報告を掲載予定です。

京都府立大学生命環境科学研究所
講師 中村 貴子

「球磨村の棚田22選」



ぞれいねいに紹介されています。発行は球磨村役場

(電話0966(32)1115
H P : <http://www.kumacom.com/>)。

前号（ライステラス61号p6）でも紹介した熊本県球磨村の棚田ガイドブック。A5判65ページ、オールカラー。球磨村の棚田22か所が、見開きでそれ

田22選」希望と書き、ライステラス編集部へ「お便りテラス（感想や自由意見、活動報告）をお寄せ下さい。先着2名さまにお届けします。ご住所、お氏名、お電話、FAX番号も併記ください。

追悼



第17回全日本棚田サミット（徳島県上勝町）の立役者であり、本協議会に設立当初から個人正会員として、棚田農家の声を発信して来られた谷崎勝祥さん（上勝町樺原／前櫻原の村代表）が2012年8月に亡くなられました。

高丸山頂 雪有三冬 君識草花 春光穏灌
高丸山頂 正簫森 寒気深 雪侵展 潤寒林
雪は三冬に有りて 寒氣深し
草花は雪の下で準備して
春の光を待つて 寒林を元気な森
——そんな思いで漢詩をつくりました。谷崎勝祥

標高450～700m、たつた17戸の集落から、第1回目の棚田サミットに参加し、以後毎年参加され、その存在は棚田保全の道に多大なる影響を与え、道を切り開いてくださいました。そして、サミットを17回目にして地元上勝町で開催させ、安堵の笑顔を見せていました。谷崎さんが漢詩を作り、以前、谷崎さんが漢詩を作り、送つてくださっていたものを遅

（解説も谷崎勝祥さん本人）
（解説も谷崎勝祥さん本人）

事務局ユース

事務局、徳島県上勝町からのあおらせコーナーです。

じることができ、非常に意義深いものであったと思っています。
10月19日には山都町営中央体育馆において500人を超える人が表があり、その後の分科会では、棚田の保全機能、文化的景観、集い、開会式、基調講演、事例発表が行われました。

また、夜の全体交流会では、各地域が育み続ける棚田の文化と景観」をテーマとして、10月19日～20日の2日間、熊本県山都町において第18回全国棚田（千枚田）サミットが開催されました。大会期間中は、全国棚田（千枚田）連絡協議会の会員はもとより、斐町長をはじめ山都町実行委員会や地元、関係機関団体の皆さまの尽力で支援の賜物であり、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今回のサミット開催地である山都町は、「風がある、文楽と石橋の郷 山都町」～星と森そして水が生まれる里～をキャッチフレーズにまちづくりを行っているところです。

山都町といえばなんといつても全國的に有名であり国の重要文化財にも選ばれている、江戸時代に建設された石橋「通潤橋」です。この橋は先人が苦労して架けた橋であり、その苦労は棚田保全と重なって見えます。山都町でサミットが開催され、「通潤橋」という具体的な歴史的資源と棚田の維持・保全を絡めて考えることによって、山都町ならではの奥深さをより感

じることができ、非常に意義深いものであったと思っています。

10月19日には山都町営中央体育馆において500人を超える人が表があり、その後の分科会では、棚田の保全機能、文化的景観、集い、開会式、基調講演、事例発表が行われました。



新しく会員になったみなさま

<個人正会員> 明本恵一（徳島県）
<個人賛助会員> 豊岡慶子（岡山県）

棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織 全国棚田（千枚田）連絡協議会

お申し込み・お問い合わせは協議会事務局
徳島県上勝町 産業課

〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町大字福原字下横峯3番地1

T E L : 0885・46・0111
F A X : 0885・46・0323

協議会HP:<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

編集後記

第18回目の全国棚田サミットが終了致しました。開催成功に向け、ご尽力下さったみなさまありがとうございました。みなさまのおかげで18回も続き、サミットでみなさんの元気なお顔を確かめることも、ライステラスの編集部として一つの役割のようにすら感じるようになってまいりました。どうぞみなさまお身体を大切に、来年も元気にお会いしたいと思います。

そして、本協議会の個人会員でもあり、棚田サミットの開催地選定委員でもある棚田博士である中島峰広先生が、秋の叡勲において瑞宝中綬章を受章されました。先生にお祝いを申し上げるとともに、棚田保全の活動にかかわるみなさんに応援ともいえる喜ばしい出来事です。次号で詳しくご紹介したいと思います。 石井里津子

熊本県内「日本の棚田百選」認定棚田

棚田イレブン



熊本県内には、山都町にある「菅棚田」「峰棚田」の2カ所以外に、「日本の棚田百選」に認定されている棚田は9カ所、合計で11地区あります。熊本県内の棚田百選を多くの方に知っていただくため、県ではこの11地区をまとめたガイド本「タナダイレブン」を発行しています。ぜひ、熊本県内の棚田にも足をお運びください。(熊本県 農林水産部 むらづくり課 古閑裕教)

扇棚田

場所：阿蘇郡産山村産山下山吹



山あいの土地を開墾したもので、扇状に広がる地形を活かして等高線状に作られている。ほとんどが土水路であるため、漏水、災害等の維持管理に困難さはあるものの自然から生まれた良質な土壤と温度差のある気象から独特な味の米を栽培している。この扇田と原生林に囲まれた山吹水源、野の花(ヒゴタイ、ユウズゲなど)は、自然派カメラマンに賞賛されている。

美生の棚田

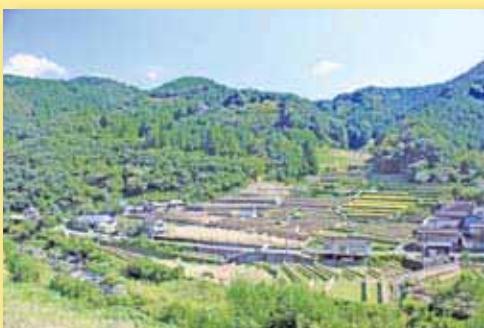
場所：八代市東陽町美生



この地域内を流れる河川は、「かじか蛙」の生息地であり、水質の保全、河川環境の保全に努めている。また、この地区で栽培されている「しょうが」の品質は、市場での評価も高く、その栽培技術が継承されている。

鬼ノ口棚田

場所：球磨郡球磨村中屋



奥行きを感じる棚田であり、良く管理されている。石積みに丸みを帯びた石を使用しているのが特徴的。棚の状況も整然としていて、美しい景観となっている。地域独自で都市農村交流活動を実施している。球磨村が選定している「球磨村の棚田22選」のうちの一つ。

日光の棚田

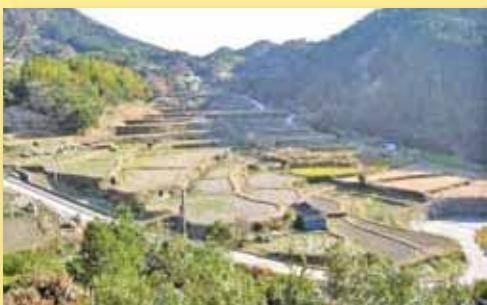
場所：八代市坂本町日光



この地域では野石が少なく、米、粟等の農作物と野石を物々交換し、現在の棚田を築き上げたと伝えられている。10年ほど前は、棚田ツアーアーを実施するなど地域がまとまって棚田の保全を行っていたが、近年は耕作者の高齢化により、管理が難しくなってきている。

大作山の千枚田

場所：上天草市龍ヶ岳町大道 大作山



龍ヶ岳中腹に広がる棚田で、この地域の神事として江戸初期に端を発する「観音祭り」が催され、威勢の良い「大作山の棒踊り」が奉納される。また、平成12年からふるさと水と土基金を活用し、市と住民組織が棚田ツアーアーを実施しており、都市と農村の交流が行われ、リピーターも多い。

松谷棚田

場所：球磨郡球磨村松谷



山の中腹より那良川にかけて扇状に広がるこの区域の棚田は、下段につれて面積が広くなっている。閉校となった小学校を活用した体験交流館「さんがうら」により都市農村交流活動を実施している。球磨村が選定している「球磨村の棚田22選」のうちの一つ。

天神木場の棚田

場所：八代市東陽町箱石



昔ながらの“掛け干し”により米の生産が行われているため、おいしいとの評判があり「箱石掛け干し米」のブランド名が確立しつつある。伝統文化の維持保全・伝統芸能「雨乞い太鼓」が保存会により継承されている。

静趣活創棚田・番所

場所：山鹿市菊鹿町番所



集落において、作業道、石積みなどの維持管理を定期的に実施している。また、畔に彼岸花を植え付けており、景観を楽しみに来る人も多く、写真愛好家の撮影スポットとしても賑わう。ふるさと水と土基金を活用し、市と住民組織が棚田ツアーアーを実施している。

寒川地区棚田

場所：水俣市久木野寒川



標高300mの山間地に位置し、河川の両側に棚田が形成され、その数約470枚が石積みによって構築されている。この棚田は、集落風景とマッチし、石積みの美しさが最大の魅力となっている。村おこし施設「愛林館」を中心に「棚田のあかり」等の活動が行われている。